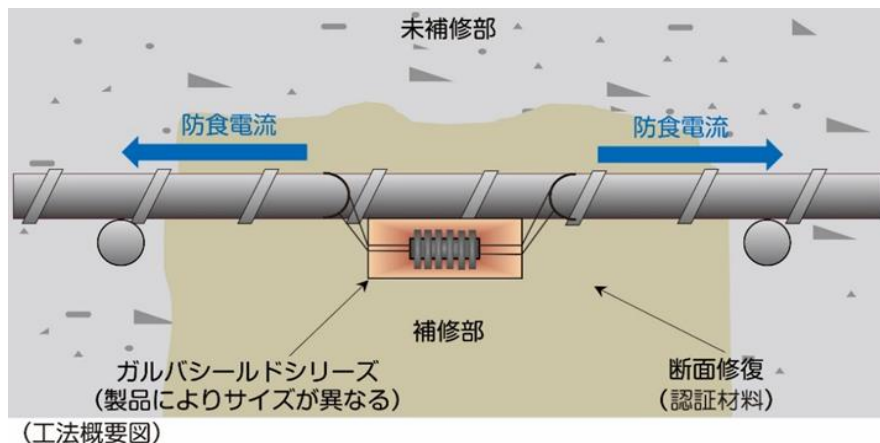


工
種

電気防食工法

ガルバシールド工法

ガルバシールド工法は、塩害・中性化などで劣化したコンクリート構造物の鉄筋に亜鉛を犠牲としたガルバシールドを設置することで、電気化学的作用により鉄筋腐食反応を抑制し、認証モルタルにて断面修復を行う工法です。断面修復は、比抵抗及びガルバシールド防食性能(有効範囲)確認済みの認証モルタル(左官、吹付け、注入)にて行います。



特徴及び規格

■ 特 長

●防錆効果	・電気化学的な反応により鉄筋腐食を防止します。 ・マクロセル及び進行中の鉄筋腐食を抑制します。 ・腐食環境が厳しい海洋構造物へ適用できます。
●性能	・マクロセルから電気防食レベルまでの防食が可能です。 ・用途・部位などにより、形状種類を選択できます。 ・塩化物イオンの除去を必要とせずに適用できます。(形状により耐用年数が変動します)
●経済性	・数種類の形状により、耐用年数も15年～40年と幅広く対応できます。 ・マクロセルによる再劣化を抑制することで、ライフサイクルコストの低減を計れます。 ・電源装置及び設備を必要としないため、維持管理費用がありません。
●施工	・迅速かつ簡単な施工です。 ・大がかりな設備はありません。
●メンテナンス	・電源管理、維持管理、メンテナンス費用は必要ありません。

■ 防食レベルによる選定方法

	防食レベル	定 義	XP	CC135	CC65	XP2	XP4	DAS
小	鉄筋防錆 (マクロセル)	新しい腐食の発生を防ぐ	○	○	○	○	○	○
↓	腐食抑制	進行中の腐食を抑制する	×	○	○	○	○	○
大	電気防食 (外部電源方式の防食基準)	進行中の腐食を止める	×	×	×	×	△	○

施工前



施工後

